

2025年度 後期

関東学院大学 寄附講座報告書

～ かながわ学（環境）～



ごあいさつ

中小企業においても、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みは必須であり、近年は、積極的に取り組む企業が増えてきました。会員のみならずもSDGsの一環としてグリーン購入をはじめとした環境への取り組みを進めておられると思います。

SDGsは、企業にとっては、CSR（企業の社内的責任）課題の中から、社会セクター側の代表格でもある国連が重要と判断した取組みを指定したものであり、企業からみれば、社会性戦略上の重要課題です。したがって、取り組みを進めたら、事業評価を行い、マネジメントレビューに乗せる必要があります。

ただ、SDGsのように社会性の高いCSRの場合、社会的意義と経営的意味の両方を評価せねばなりません。

このような評価は大変ですが、近年の大学教育においては、CSRや環境問題、まちづくりなどに力を入れている大学が多く、そのような教育を受けている学生の感想や意見は、企業にとって得るものが大きいと思います。

寄附講座は大学の正規授業の一環で行われ、学生には単位も出ますが、内容や運営については、担当する各企業が自由に設計できます。具体的には、授業の中で自社の取組みや課題に関するテーマを設定し、学生にグループディスカッションをさせて意見や提案を吸い上げるということも可能です。また、授業後に、自社で作ったアンケートを実施したり、指定したテーマでレポートを提出させたりすることも可能です。アンケート用紙やレポート用紙のご用意がなくとも、授業で使うレスポンスシートやレポート用紙をそのまま使って頂くことができます。

また、寄附講座は、「環境」をテーマに専門的に学んでいる学生が多く履修していることから、講義への関心が高い学生が履修しています。関心をもって学ぶ学生に接すると、講座を担当された社員の方にも刺激になるのではないかと思います。会社の業務や活動を担うことでやりがいを得ると、会社への求心力や業務パフォーマンスも高まります。寄附講座を通して良い社員を育てることもできるのです。

さらに、「環境」への関心が高い学生に自社をアピールする面もあると思います。感想カードを見ると、講義を聴いた学生に伝わるものが大きいことがわかります。当寄附講座は、学生が実践的学びを得る場として教育上きわめて大きな意義があるとともに、企業にとっても様々なメリットがある講座です。ぜひ貴社もご参加いただけましたら幸いです。



横浜グリーン購入ネットワーク会長
横浜市立大学 名誉教授
関東学院大学理工学部 講師

影山 摩子弥

2025年度 関東学院大学寄附講座プログラム

講義順	日程	事業者名	タイトル
1	10月7日	PermanentPlanet 株式会社	脱炭素のいま～国内外の動向と産業の最新事例～
2	10月14日	築野グループ株式会社	築野グループとSDG s
3	10月21日	株式会社 wash-plus	水を守る、地域を守る、命を守る ～ wash-plusの事業展開～
4	10月28日	スーパーバッグ株式会社	『紙袋』の作り方・『フレキソ印刷』・環境に 配慮した素材
5	11月11日	太陽油脂株式会社	太陽油脂のSDG s 取り組み（石けん教室、R S P Oに ついて
6	11月18日	横浜市	環境問題の歴史と私たちの行動のヒント
7	12月2日	株式会社オカムラ	オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”
8	12月9日	東洋電機製造株式会社	当社のサステナビリティ経営・鉄道の環境優位性
9	12月16日	生活協同組合ユーコープ	みらいのためにつづけよう
10	12月23日	大東建託株式会社	LCA（ライフサイクルアセスメント）から考える 「建築×環境」の未来
11	2026年 1月6日	株式会社 リコー	リコーグループのサーキュラーエコノミーの取り組み

【開催場所】

関東学院大学 金沢八景キャンパス

【対象学生】

工学部、理工学部、建築・環境学部の2年生～4年生、60名

【授業の時間帯】

2025年10月7日から毎週火曜日 15:10～16:50 全11回



脱炭素のいま ～国内外の動向と産業の最新事例～

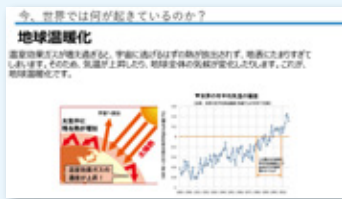
2025年
10月7日



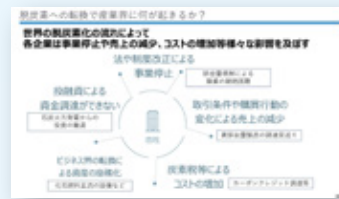
Permanent Planet株式会社 代表取締役：池田 陸郎

講義
内容

Permanent Planet株式会社では、企業のSDGsや脱炭素経営を後押しするセミナーを全国で行っています。本年度の寄附講座では、今起きている地球温暖化や気候変動の直接的な影響と間接的な影響、脱炭素施策による世界各国の投資動向と脱炭素への転換で産業界に何が起きるかを大学生にもわかりやすくご紹介しました。国内企業の事例紹介では、横浜・神奈川など自治体の取組も取り上げ、身近な話題として共有しました。就職先の選び方や日々の購買行動を見直すヒントにさせていただくことを目的に、未来は私たちの選択で変えられることを一緒に考えてもらう時間としました。



1. 気候変動とは？具体的な影響について



2. 脱炭素施策にともなう世界各国の動向



3. 脱炭素経営の取組事例



4. 事業におけるSDGsの実装の必要性

受講生
の感想

- ・特に印象的だったのは、企業が自主的に温室効果ガスの削減目標を掲げるSBT (Science Based Targets) や、電力を100%再生可能エネルギーでまかなうことを目指すRE100といった国際的な取り組みが、経済活動の中で重要視されている点である。花王やイオン、東急不動産などがこうした目標を実際に掲げ、サプライチェーン全体に脱炭素化を求めていることは、企業の社会的責任が「環境への配慮」として具体的な形を取っている好例だと感じた。中でも中小企業である大川印刷がCO2ゼロ印刷を実現し、環境配慮型経営によって新規顧客を増やした事例は、規模に関係なく「努力が評価される時代」であることを示しており感銘を受けた。
- ・資料の最後にあった「買い物は未来への投票」という言葉が特に心に残った。これは、消費者である私たち一人ひとりが環境に優しい商品を選ぶことで、間接的に地球の未来に影響を与えているという意味である。環境問題は政府や企業の取り組みだけでは解決できず、個人の意識と行動の積み重ねが必要不可欠である。
- ・今後は「便利さ」や「価格」だけでなく、「環境への影響」も考えて選択することが、持続可能な社会づくりへの第一歩になると感じた。
- ・この講演資料を通して、地球温暖化対策とは単なる環境保護活動ではなく、産業、経済、そして生活全体の在り方を見直す大きな転換であると理解できた。私自身も、身の回りの小さな行動から脱炭素社会への貢献を意識していきたい。

担当者
の感想

昨年度同様、自らの購買行動が脱炭素やSDGsにつながるということを考えてもらう時間としました。なかなか自らの購買行動を見直すことは少ないと思いますが、講義で知ったことをきっかけに、日常生活における自分自身の行動を振り返るきっかけに生まれればと思います。



講義内容

1. 築野グループ概要

築野グループ体系 / 沿革 / 企業理念 / 事業概要 / 製品概要

2. SDGs & 環境への取り組み①米ぬか編

こめ油事業/もったいない大賞/こめ油以外の活用方法/研究開発のはなし

3. SDGs & 環境への取り組み②廃食用油（使用済みてんぷら油）編

築野のオレオケミカル事業/廃食油とは/各種製品/ライスインキ

大きく3つに分けて講義を実施。まずは築野グループとは、から始まり、思いや事業内容について。その後、米ぬかを通じてのSDGs、環境への取り組みをもったいない大賞受賞の際の話も入れつつ紹介。最後に、使用済みのてんぷら油の有効利用の歴史や製品群について紹介。



受講生の感想

- ・本日の講義を通して、築野グループ株式会社が「米ぬか」をはじめとする植物由来資源を活用し、環境にやさしい製品づくりを行っていることを知りました。特に、こめ油の製造過程で発生する副産物を廃棄せず、化粧品原料やインキなどへ再利用している点に強い印象を受けました。
- ・今日の授業は話を聞いて米ぬかを無駄なく使い、環境にも人にも優しい製品づくりをしていることがすごいと思いました。SDGsにもつながっていて勉強になりました。
- ・築野グループ株式会社は、SDGsの目標を大切にしています。廃食用油をリサイクルし、ゼロエミッションを目指すなど、環境にやさしい活動を続けています。会社の利益だけではなく、人と地球のことも考えている姿勢に心を打たれました

担当者の感想

身近であって身近でないような米ぬかや使用済みの廃食用油について、我々の思いや取り組みが少しでも伝わればという思いで講義させて頂きました。アンケートから非常に前向きで素直な感想や理解頂いた声が届き、安心しました。



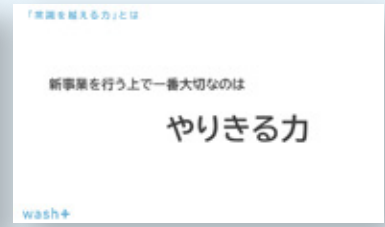
水を守る、地域を守る、命を守る ～ wash-plus の事業展開～

2025年
10月21日

wash+ 株式会社wash-plus 代表取締役：高梨 健太郎

講義内容

- ・洗剤を使わず合成化学物質が含まれない洗濯による、アレルギーフリーで排水汚染を軽減し節水も実現する洗濯の開発について
- ・ランドリー専用IoTシステムでランドリー業界でのDXの実現するシステムの開発について
- ・ウォッシュプラスの事業がSDGs推進にどのように貢献しているか
- ・大阪・関西万博に出展した「水を捨てない洗濯機」の開発について
- ・今後の新技術の展開
- ・新技術の開発に挑む心構えについて
- ・起業について



受講生の感想

- ・コインランドリーの奥深さがとても面白かった
- ・コインランドリー関連からSDGsを達成するという視点に驚いた
- ・私もコインランドリーを使用するアトピー患者ですが、環境や人間に優しい取り組みやプログラミング、事業計画などとても勉強になることが多かったです
- ・立ち上げて軌道に乗せるまでに、必要な心構えや努力の方向なども説明いただき、学びになった
- ・これまでの出来事、やったこと、努力したことを生で聞けたことはこれからの人生で何かに挑戦する勇気を貰える講義だった
- ・やるきり力であったり、行動力が本当にすごいと感じました



担当者の感想

コインランドリーを利用したことがない学生さんが多かったようでしたが、「コインランドリー関連からSDGsを達成するという視点に驚いた」といった反応を多くいただき、新たな視点を知っていただけたようで嬉しかったです。

また、若い世代へのエールを込めて起業についても触れたところ、前向きな感想をたくさんいただきました。弊社やコインランドリー業界を知っていただくのは勿論嬉しいことですが、若い方の人生の貴重な1時間に関わることができ楽しい時間でした。ありがとうございました。



『紙袋』の作り方・『フレキシ印刷』・ 環境に配慮した素材

2025年
10月28日

kpj SUPERBAG CO.,LTD.

スーパーバッグ株式会社 マーケティング部：後藤 浩司
環境マネジメント部：南山 昇輝

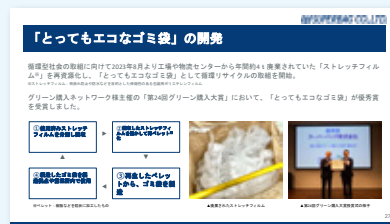
講義内容

私たちは皆様の身近にありながら、素材や作り方、ましてパッケージの専門メーカーがあるということもあまり知られていないと感じており、是非その一端でも知って頂きたいという思いで登壇させて頂きました。一口にパッケージと言っても用途や目的に応じていろいろな素材・形状・種類があること。紙袋がどういう工程で作られているか。フレキシ印刷の環境面での優位性や進化。包装容器に求められる役割や市場規模など、多面的なお話をさせて頂きました。

また今、環境面で企業が求められること。それに対し当社がどう向き合い、取り組みを進めているかについてもご紹介させて頂きました。

紙袋を手にしたとき『あ、そういえば』と思い出してもらえると嬉しく思います。

当日は当社独自でもアンケートを取らせて頂き、学生の皆様のパッケージに対する生の声が垣間見れたことも、当社にとってはとても有益な経験となりました。



受講生の感想

『SUPERBAGは「包装資材を通じて環境と経済の両立を目指す企業」であると感じた』と記載頂いた方が居ました。まさに当社が現在、目指している『あるべき姿』です。まだまだ足りないことだらけですが、今回の講座でそう解釈して頂いたのはとてもうれしく思います。

発表者が使ったワード「国土を守るヒーロー」について共感頂き、単なるキャッチではなく、普段あまり意識していない紙袋も実は環境保全と密接な関係にあることをご理解いただけたのはありがたく思いました。こういった表現は重要かつ有効だと改めて認識できました。



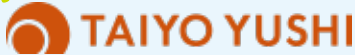
担当者の感想

アンケートから、学生さんの環境に対する関心度の高さやコスト意識（お財布事情？）を改めて知ることができました。当社の製品への理解を深めて頂き、環境に対する取り組みについても肯定的なご意見が大半でした。当社の目指す方向性や取り組みは間違っていないと感じられたことは、大きなメリットとなり、さらに邁進するきっかけにできると思います。中には消費者目線での提言・提案を頂いた方も居て、是非、当社で実現して頂きたいと思えます。参加頂いた学生には、普段何気なく使っている包装資材について改めて理解を深めて頂き、当社のみならず企業が環境について本気で取り組んでいることを考えて頂くきっかけや一助になれたのではないかと捉えております。しっかり聞いて頂いたことが分かるコメントばかりでした。学生の皆さん各自で考え・行動して頂ければ、環境課題は克服できるものと期待しております。



太陽油脂のSDGs 取り組み (石けん教室、RSPOについて)

2025年
11月11日



太陽油脂株式会社 人事総務グループ サステナビリティ推進チーム：
広田 哲也、堀 清貴、東山 俊明

講義内容

- 1) 太陽油脂のSDGs/環境への取り組みについて知る
- 2) 環境や人体に対する石けんのやさしさや、SDGsとの関係を学ぶことでエシカル消費の普及を計る
- 3) 石けんの原料としても使われているパーム油について、現地の状況やRSPO認証制度について学ぶ



企業紹介と当社のSDGsや環境への取り組みを紹介させて頂いたのち、なぜ石けんが環境や人体に対してやさしいとされるのかについて、石けんの「はたらき」や「性質」、正しい使い方について説明し、実験などの映像を視聴して頂きながら講義を行いました。

パーム油に関する講義では、基本的な説明から様々な課題（森林減少や生物多様性消失、泥炭地開発、労働問題など）を説明し、RSPO認証制度の紹介や環境にやさしい製品を選んで使う「エシカル消費」の大切さを伝えました。

受講生の感想

パックスナチュロンというブランドは以前から認知していたので、興味深い話を伺えた。原料の殆どを輸入に頼るといふかたちの事業で度々話題に上がる、環境負荷や労働環境の改善など、さまざまな課題について、真摯に向き合い、解決に向かわせるという企業としての理念を感じることができた。

太陽油脂株式会社の説明を聞き、普段身の回りで使われている石けんや化粧品が、想像以上に環境問題や持続可能な社会づくりと関わっていることを知り驚いた。特に、同社が進めているSDGsの取り組みの中で、使用電力の再生可能エネルギー化や廃棄物の削減、生物多様性の保全など、製造から販売まで一貫して環境への配慮を徹底している点が印象に残った。また、地域と連携したESD（持続可能な開発のための教育）やサステナブルスクールの活動など、企業としての社会的責任を超えて、次世代に持続可能な価値観を伝える取り組みも行っていることを知った。

太陽油脂株式会社の話を聞いて自分はまず石けんが海に流れたとしても生物に害を与えるようなものではないことを初めて知った。

とある島で石けんを流したところ汚かった海が改善されたなど石けんにそれほどまでの効力が秘められていることを知らなかった。特に太陽油脂株式会社様では人と地球にやさしい製品づくりをモットーにあげているため環境のことを第一に考えた製品づくりをしていることなどから素晴らしい会社であることを知った。

太陽油脂株式会社の社員の方による講義を通して、普段何気なく使っている日用品や食用油の背景にある企業の努力を知ることができ、とても印象に残った。特に、環境と人に優しいものづくりを目指している姿勢に共感した。講義の中で紹介された食用加工油脂の話では、味や品質だけでなく、安全性や環境への配慮を重視して製造していることを学んだ。原料となる植物油を無駄なく活用し、できる限り添加物を減らす工夫をしているという説明を聞いて、食に対する安心感を大切にしている企業だと感じた。また、石けんやシャンプーなどの生活用品も、自然由来の成分を使って環境負荷を減らす取り組みをしている点に感銘を受けた。これまで私は、製品を「便利だから」という理由で選んでいたが、これからは「どのような考えで作られたものか」という点にも目を向けたいと思った。大学生として社会について学び始めた今、企業の社会的責任や持続可能なものづくりの大切さを改めて実感した。今回の講義は、自分の将来の進路を考える上でも大きな刺激になった。



担当者の感想

今年度も関東学院大学の皆さまへ対面講義を行いました。学生の皆さまの感想文を読ませて頂きました。

当社の企業活動におけるSDGs 貢献に繋がる活動（RSPO認証油使用、出前石けん講座、エシカル消費啓発など）の紹介を通して、サステナブルな製品づくりや取組みを実践している企業だと認識して頂けたと思います。

また、パーム油の問題やRSPOについての感想が多い印象を受け、引き続きエシカル消費を多くの方へ伝え行動提起していく必要性を強く感じました



環境問題の歴史と私たちの行動のヒント

2025年
11月18日



横浜市 みどり環境局 環境活動事業課：森山 晴美

講義内容

公害や廃棄物のテーマを中心に、環境問題を克服するための都市づくりの歴史と、環境保全のための横浜市の取組や市民の活動、また、SDGs までの道のりを講義しました。歴史を学び過去の事象が自分の生活に直結していることを知ることで、行動に変化が生まれます。また、行動のヒントになるよう、現在の横浜市の取組や環境情報発信媒体の紹介、さらに環境を深く学びきっかけとなるGREEN EXPO2027の紹介動画を活用しました。



受講生の感想

- ・戦後の工業発展時の日本が公害からどのように立ち直ったか皆が理解すれば環境破壊を防ごうという一人一人の取り組みも増えていくのではないかと。
- ・環境問題の歴史を知るとは、経済活動と環境保全を調和させ、未来に向けてより良い選択をするための土台になると強く感じた。
- ・個人の行動が未来の環境に直結するというメッセージが強く心に残った。
- ・学んだことを実際の行動につなげるため、今後は環境関連のイベントにも積極的に参加し、環境保全への理解を深めていきたい。
- ・これからの時代SDGsの考えなしでは社会で生きていけないので、日頃から考え環境ボランティアなどに取り組みたい。
- ・将来どのように環境へ関わるか、学んだ知識を考える良い契機となった。
- ・地道な取組が環境問題ではとても必要で、それが数年後に影響してしまうので少しずつでもいいから改善して社会に貢献していきたい。

担当者の感想

一人一人の日々の小さな行動の積み重ねこそが環境保全であり、その行動が広がっていくことで住みよい街・きれいな空につながることを講義の軸にしました。

いただいた感想では、環境問題を自分事としてとらえる姿勢が見られ、環境をこれからどのように考えどう行動していくか、具体的に書かれている方も多く、大変頼もしく思います。

市民の方の行動変容につながる、こうした寄附講座の機会をいただけることに感謝します。



オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”

2025年
12月2日

OKamura 株式会社オカムラ：大下 剛志

講義内容

オカムラのサステナビリティの推進の取り組みの中で「木材の利活用による」部分にフォーカスを当てた講義を実施。

1. オカムラの経営理念、“オカムラウェイ 人を想い、場を創る。”を説明
すべての人が生き活きと活躍できるサステナブルな社会を実現するために設定したサステナビリティ重点課題4分野に基づき具体的活動を紹介。



2. オカムラの考える木材の利活用について説明。国産木材を活用する意義・目的を伝える。地球温暖化防止のための活用と日本の現状と必要性、森林保全・健全化、経済活性化の関係についてオカムラの活動、製品の事例を通して講義。



受講生の感想

- ・「自分事化」のきっかけ
今回の講義を通して、環境への配慮は企業だけの問題ではなく、使う側の私たちの意識も大切だと感じた。これからは身近なものを選ぶとき、環境に少しでも良い選択ができるよう意識していきたい。
- ・「森林を通したオカムラの取り組みへの共感」
“木を使うからこそ、森林を守る”という考え方を大事にしている点が印象的だった。間伐などの森林管理をきちんと行うことで、むしろ自然の循環が保たれるという話は新鮮で、「木を切る＝悪い」という単純な考えではいけないと気づかされた。また、木材のトレーサビリティや認証制度を活用して、合法性や持続可能性をしっかりと確認している姿勢から、企業としての責任感が伝わってきた。

担当者の感想

- ・ここ数年、サステナビリティの取り組みを「国産材活用」という視点では講義を構成していますが、国産材活用の真の理由が知られていないと感じます。サステナブルとは何か？の根本的な部分を腹落ちさせることに立ち戻ることも必要ではないかと思いました。
- ・オカムラとしては、国産材活用の推進をより進めていくべきだと改めて感じております。



当社のサステナビリティ経営・鉄道の環境優位性

2025年
12月9日

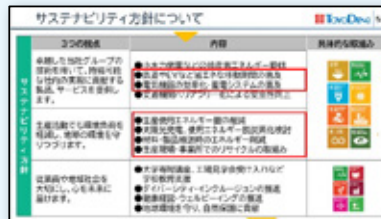


東洋電機製造株式会社 経営企画部担当部長

サステナビリティ推進室長 グループ管理部担当部長：北原 冬雪

講義内容

- ・鉄道の歴史と当社創立の由来
- ・当社の事業内容
- ・当社のサステナビリティ経営
- ・鉄道の環境優位性



受講生の感想

- ・身近に使用している鉄道について、御社は唯一頭から足まで一貫して部品を生産している会社だとは知らず驚きがあった。
- ・毎日のように利用している鉄道ホームに滑り込んでくる車両に乗り込み、目的地まで揺られるその時間は、あまりにも日常的で、「動くこと」や「止まること」があたかも空気のように当然のこととして受け入れられている。東洋電機製造という企業の存在とその技術力を知ったとき、その日常が決して偶然の産物ではなく、極めて高度な「安全性」と「快適性」の追求の上に成り立っているのだと強く感じた。
- ・私は経営学に興味があり、サステナビリティ経営と言うものを初めて耳にしました。この社会には、まだ自分の知らない多様な経営があることを学びました。
- ・鉄道は他の交通手段と比べて CO₂ 排出量が非常に少なく、環境負荷の面で優れていることを改めて理解した。回生ブレーキなどの技術開発によって、さらに環境に配慮した車両づくりが進んでいる点も興味深かった。
- ・鉄道などへの捉え方が変わりました。CO₂排出量削減の取り組み方はすごいと感じていて、ハイブリッド車のように回生ブレーキを有効活用しているのを聞いて驚きました。
- ・サステナブルな社会の実現は、私たち一人ひとりの小さな選択が積み重なることで生まれるものだと感じた。企業や行政の取り組みだけでなく、市民が主体的に関わることで初めて大きな変化が生まれる。持続可能性を意識した生活を続けることが、よりよい社会への一歩だと強く思った。

担当者の感想

- ・提出いただいたアンケートは個人名がわからないようにして社内に展開した。学生各位からの率直な意見は非常に参考になった。当社の認知度の低さは課題だと思っており、今後も事業内容を多くの方に理解いただくような活動の必要性を感じた。
- ・当社は今後の事業展開において、インドネシア鉄道市場を重要視しており、当社からインドネシア国鉄への電機品納入により渋滞解消や省エネ性の高い鉄道車両づくりに貢献できると考える。関東学院大学とインドネシアのダルマプルサダ大学が提携していることを知り、今後はよりインドネシアにフォーカスした講義も検討したい。



みらいのためにつづけよう

2025年
12月16日



生活協同組合ユーコープ：河澄 一志

講義内容

「地球温暖化」に大きな影響をもたらす「二酸化炭素（CO₂）」の排出量削減に向けては、私たち事業者はもちろん、消費者一人ひとりが取り組む必要があります。

わたしたちが、将来にわたって暮らし続けていける環境にするために、事業者として何ができるか、消費者として何ができるか「みらいのためにつづけていくこと」を一緒に考える」を講義テーマに、① CO₂排出量の削減、② サステナブルな商品の拡大、③ 廃棄物の削減の3つを取り組みの柱とした、ユーコープの「2030年に向けた環境基本政策」について、事業者としての取り組み進捗報告とあわせ、消費者として取り組めることをお話ししました。

また、SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」に関連し、ユーコープの採用担当者より「自分にとってのやりがい」についてもお話ししました。



受講生の感想

環境の講義で生活協同組合ユーコープの取り組みについてお話を伺い、日常の暮らしと環境問題が深く結びついていることを実感した。ユーコープは、組合員の生活を支える存在であると同時に、環境負荷を減らすための具体的な行動を継続して行っている点が印象的だった。特に印象に残ったのは、商品開発や物流の段階から環境への配慮を行っている点である。簡易包装やリサイクルしやすい容器の使用、食品ロス削減への取り組みなどは、身近でありながら確実に環境負荷の低減につながる工夫だと感じた。日々の買い物という何気ない行動が、環境問題の改善に結びつくことを具体的に理解することができた。また、ユーコープが利益だけでなく、組合員の暮らしの質や地域社会との共生を重視している点にも共感した。環境に配慮した商品を選ぶことは短期的には負担に感じる場合もあるが、長期的には持続可能な社会の実現につながるという考え方は重要だと感じた。さらに、環境問題を企業だけの課題とせず、組合員とともに取り組んでいる点も印象的だった。情報発信や学習の機会を通じて、一人ひとりの意識を高める姿勢は、協同組合ならではの強みだと思う。今回の講義を通して、環境問題は日常生活の中で誰もが関われる課題であると感じた。今後は、商品を選ぶ際に価格や利便性だけでなく、環境への影響も意識しながら行動していきたい。

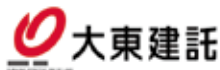
担当者の感想

多くの学生にとって「自分にできること」を考えるきっかけになったことが伺えます。本講義が、一人ひとりの実践を生み、共に未来を紡いでいくことにつながっていけば幸いです。



LCA(ライフサイクルアセスメント)から考える「建築×環境」の未来

2025年
12月23日



大東建託株式会社 技術開発部：茂崎 誠治、土橋 由依

講義内容

大東建託が取り組むLCA（ライフサイクルアセスメント）をキーワードに、当社を含め、建設業界の企業がどのように気候変動対策に取り組んでいるのかを学生の皆さんに体感していただきたいという思いで下記内容について講義を行いました。

1) 世界の動向と建築業界の現状

気候変動の世界的な目標（1.5℃目標）に対し、現在危機的状況であるということ、中でも建設業界は世界的に見ても排出量の多いセクターであり削減に取り組む意義や責任が大きいことを説明しました。



2) LCA（ライフサイクルアセスメント）とは？

企業が温室効果ガスを減らすためにはまず「どんな場面」で「どのくらい」温室効果ガスが発生しているのかを「見える化」することが重要であり、それを行う手法がLCAであることを説明しました。後半は当社が利用しているLCA算定ツールを実演しました。

3) 建設業界の今後を考える（グループワーク）

見える化した後にどのように削減するかを体感いただくため、建設事業のサプライチェーンの段階（調達・資材製造・建設・居住・修理増改築・解体）ごとにどんな削減策があるかをグループワークで考えていただきました。ワーク後は、いくつかのグループに共有いただき、議論を深めました。

受講生の感想

- ・建物の“完成後”だけでなく、材料の製造から廃棄までの全過程を考えるLCAの視点はとても重要だと思った。今後は、環境に配慮した建設が当たり前になる社会になってほしいと感じた。
- ・LCAを使って建築と環境の関係を「ちゃんと数字で見る」ことがどれだけ大事かわかった。それを可視化することで、「なんとなく環境に良さそう」じゃなくて、どこをどう減らすべきか具体的に考えられるのが面白いと思った。
- ・建設分野が世界のCO₂排出量の約34%を占めているという現実を知り、日常的に利用している建物が環境へ与える影響の大きさを実感した。
- ・グループでCO₂を減らす方法について話し合ったことで、自分一人の視点では気づけなかった意見に触れ、考えるきっかけになった点も良かったと感じた。
- ・CO₂削減は建設事業者だけが取り組めばよいものではなく、資材を供給するサプライヤーや、実際に建物を利用する施主・居住者も含めた行動が必要であるという点も重要だと感じた。



担当者の感想

今回、初めて講義の機会を頂きましたが、これから益々気候変動の影響を受けていく年代の皆さんだからこそ、企業がどのように環境に取り組んでいるのか体感してほしい、そして、できれば環境を仕事にすることにも興味を持ってほしいという思いで今回講義をさせていただきました。

講義の中で印象深かったのは、学生の皆さんがグループワークでの議論に熱心に参加してくださったことです。難しいテーマながらも様々な意見を出していただきました。また、後日頂いた感想においても、当社のメッセージを汲み取って学生さんそれぞれの言葉にして返していただき、講義の成果として大変嬉しく思っています。

今後も、このような環境教育活動を続けていくことで、持続可能な社会の実現への歩みを進めていきたいと感じました。



リコーグループの サーキュラーエコノミーの取り組み

2026年
1月6日

RICOH 株式会社リコー：佐藤 多加子

講義内容

リコーグループのサーキュラーエコノミーの取り組みと題して、リコーグループにおける ESG（環境・社会・ガバナンス）戦略とサーキュラーエコノミー（循環型経済）への取り組みを具体的な開発製品の事例を交えて紹介。

1. リコーの環境経営とESG戦略

- 1970年代から環境活動を開始し、1998年に「環境経営」を提唱。
- 現在は ESGと事業成長を同軸化する経営方針を推進。
- 7つのマテリアリティと16のESG目標を設定し、脱炭素・省資源・人権などのテーマで全社的に取り組む。

2. 顧客（海外・日本）からのESG要求の高まり

- 欧州を中心に、ESG項目が商談獲得の必須要件化。
- EcoVadis・CDP・CFPの外部評価による開示要求が増。
- 公共調達（オランダ・英国・日本）や大手企業の調達で、再生材使用、CO₂削減、サプライチェーン人権対応などが重視される。

3. リコーのサーキュラーエコノミーの取り組み

- 1994年提唱の「コメットサークル」に基づき、製品ライフサイクル全体で3R (Reduce/Reuse/Recycle) を実践。
- 2030/2050年を見据えた新規資源使用率の大幅削減を目標に設定。

4. A3カラー複合機 IM C6010 シリーズの環境配慮成果

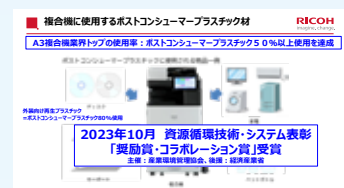
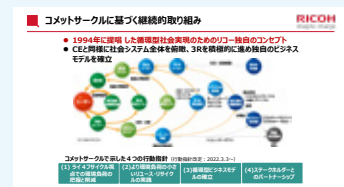
- 再生プラスチック使用率 約50% (A3カラー MFPで業界トップ)
- CFP (カーボンフットプリント) を前身機比 約27%削減
年間 CO₂削減効果 約88,000t
- 包装材のプラスチック使用量を前身機比約54%削減
- 省エネ性能は国内 No.1 を維持

5. 社内体制と技術開発

- 2020年にサーキュラーエコノミーワーキングを設置、調達/設計/生産/品質/ESGが連携し再生材利用やコスト課題を解決。
- 材料メーカーと協働し、高配合・高性能の再生樹脂を開発。

6. 今後の方向性

- 再生機への拡大、循環型ビジネスモデル強化。
- ESGを“将来財務”として捉え、中長期的な企業価値の向上を目指す。
- ステークホルダーとの対話や情報開示 (TCFD・統合報告書等) も強化



受講生の感想

- 殆どの受講生が、リコーの複合機に使用される再生プラスチックの率が、当初1%程度だったところから、50%に上げた挑戦や、使用済み製品を回収し再生機として提供する仕組みがあることに驚かされていた。特にコメットサークル（1994年提唱）や全社環境目標をバックカスティング方式で設定するなど、早期から循環型社会を志向していた先見性を評価いただいた。
- 今回の講義で最も価値観が変わったという意見が多かったのは、ESGが社会貢献ではなく、企業価値・競争力に直結することでした。特に欧州では環境対応が不十分な企業は入札の土俵に上がれないことや、実際の商談において金額や品質は、競合他社と大きな差がつかず、サステナビリティスコアで勝った事例に興味を持っていただけた。

担当者の感想

プレゼンは67頁と多数あるなか、“今日はこれだけ覚えていただければOK”と「持続可能な社会の実現に寄与しながら、企業も持続的に成長する」ことを事例を交えて強調しました。

結果、アンケートにもそのことが多く書かれており、少しでも学生さんたちの気づきになったことがわかり大変うれしく思いました。

